

## 第六回 SJAC講演会を開催

### －747-8Fで広がる航空貨物輸送－

(一社)日本航空宇宙工業会は、去る12月2日(月)、SJAC会議室にて第六回 SJAC講演会を開催したのでその概要を報告する。

革新航空機技術開発センターでは新たな取り組みの一環として、民間航空機のライフサイクルに合わせ、我が国航空産業で長年の経験を持つOBの皆さんによる一連の講演会を実施してきた。

今年度は、航空機装備品、運航、他産業の革新技術などに関する講演会を計画しており、将来の航空産業界の人財育成および今後の研究・開発に生かすことを目的に、第三回目(革新航空機技術開発センター講演会)として、日本貨物航空株式会社 常務執行役員 齋藤 隆様に講演をお願いした。

齋藤様は、1975年東京大学工学部航空工学を卒業、日本航空株式会社に入社され、整備技術、運航技術など幅広く担当されたのち、2004年運航本部運航技術部長、2006年整備本部技術部長、2008年日本航空インターナショナル執行役員 兼 整備本部副本部長を歴任された。2010年12月日本航空を退社、2013年4月より日本貨物航空株式会社で現職に就かれ

ている。

「747-8Fの概要」と「国際航空貨物運送の現状・展望」の二つのパートに分かれ講演は行われた。

前半では最新機種である747-8Fの数々の特徴が説明された。例えば、747-200F、747-400F、そして747-8Fの燃費を大まかに比較すると100:81:67で-8Fは確かに経済性に優れており、貨物の搭載量も-400Fの112tから大きく増加し-8Fでは134tとなっている。777の貨物機と比較してみると、4発機にもかかわらず-8Fのエンジン整備費は変わらない等々。後半では、日本の発着貨物輸送量(船を含めた)の重量ベースでは0.24%しかない航空が、運送額ベースでは30%以上の割合を占めており、高額な貨物をタイムリーに輸送する航空貨物の特色などが語られた。

なお、講演資料はSJACホームページにてご覧いただけます。



〔(一社)日本航空宇宙工業会 技術部部長 飯島 澄〕